

全国協議会 全国大会 岩手・盛岡大会 ミニレポート

令和6年11月7日（木）～8日（金）

全国協議会の全国大会「岩手・盛岡大会」に参加しました。
大会実行委員会によると、参加者は約460名とのことです。
札幌からの参加者は、6名でした。

【大会1日目】 会場：盛岡市民文化ホール



シンポジウム テーマ『イーハトーヴから探究人を生む～学校文化として根付く探究的な学びとは～』

田村学先生（主任視学官）、嶋野道弘先生（元主任視学官）、野口徹先生（山形大学教授）、大会研究部関係者によるシンポジウムです。

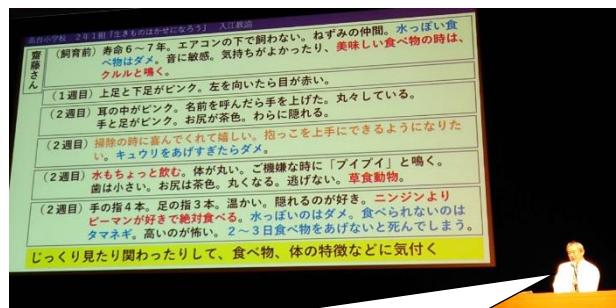
①生活科の存在意義、②総合的な学習の時間の存在意義、③探究の実践研究を全国に広げる、の3点がセッションテーマです。嶋野先生から、子どもの姿で語る生活科論「パラダイムの転換～生活科の誕生が〇〇觀を変えた、広げた～」のお話を久しぶりに聞くことができました。



講演会 演題『未来をつむぐ人づくりにつながる生活科・総合的な学習の授業』 講師：齋藤博伸教科調査官

齋藤博伸教科調査官から、全国の実践における子どもの学びや教師の関わりについて紹介がありました。

その中で旭川大会の授業（2年生活『生きものはかせになろう！』）が取り上げられ、ドキュメンテーションのよさと子どもの気付きの変容についてスライド（3コマ）で紹介されました。



とてもいいドキュメンテーションが掲示されていました。同じ対象（モルモット）に関わっていても、子どもによって気付きの対象や感じ方がこのように違うんです。これは飼育活動のいいところですね。

レセプション 会場：ホテルメトロポリタン盛岡



立食形式の懇親会



翌日の課題別分科会に向けて気合を入れる札幌のメンバー



余興の「わんこそば早食いリレー大会」では、文部科学省チームが2位に！

【大会2日目】 会場：盛岡市立本宮小学校 ※会場校はもう1校（杜陵小学校）あります

公開授業① 3年『本宮ハッピープロジェクト～お年よりともっといっしょに・なかよく・えがおに～』

高齢者との交流を通して相手理解と共生について考える単元です。

公開授業は、来校したお年寄りの方々の特技や趣味（山菜採り、登山、裁縫、スケッチ、あやとり、コマ回しなど）についてレクチャーを受けたり、実際に実技・体験をしたりする場面でした。

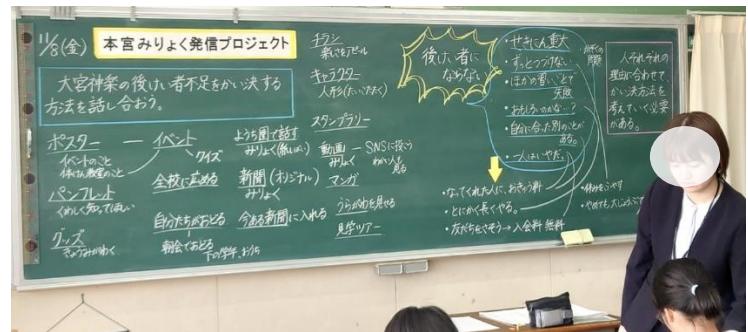
授業の最後、お年寄りの方から、「今日はみなさんのおかげで脳が活性化されて若返りました。自分のおじいちゃん、おばあちゃんに教えてもらうこともいいけど、自分の方からも教えてあげてくださいね。」とお願いされたことが、子どもたちの心に深く残ったようです。



公開授業② 4年『本宮地域みりょく発信プロジェクト～大切に守り伝えよう 伝統文化広め隊～』

盛岡市の伝統文化「大宮神楽」の後継者不足を知り、自分たちにできることを考える場面です。

授業の後半、授業者が「みんなは後継者になるの？」と問い合わせたことで、「後継者にならない、なりたくない」という子どもたちの本音を引き出し、「この問題はどうしたらいいの？」と葛藤しながら考えるようになりました。（田村先生がこの場面を授業講評の中で褒めていました。）



課題別分科会 視点2：深い学びの実現につながる単元構成（生活）

「手応えのある学びからつながる深い学び～幌西スマイルたんけんたい～」

札幌市連盟研究大会の授業実践を中心に、市連盟の研究主張「手応えでつなぐ学び」について提言発表をしました。

作成したプレゼンテーションに、授業者からの最新情報（大会授業後の様子や子どもたちの振り返り）が加わったことで、「問い合わせ解決した手応え」「学習を調整する手応え」「力の伸びに対する手応え」を実感する子どもの姿を示すことができました。



会場校授業 講評 会場校講師：田村 学 主任視学官

公開授業の子どもの姿を取り上げながら、「深い学び（知識・技能をつなぐ）」に関連付けて、「行為・変容によって自覚・実感する探究プロセス」や「自覚につながる音声・文字言語による活用・発揮（OUTPUT）」の大切さについて解説がありました。



【おまけの話】

会場校の児童トイレの全個室にウォシュレットが標準装備されていました。新しい校舎ではありません。築30~40年の校舎です。



次年度以降の全国協議会 全国大会

- 【令和7年度】広島・広島市大会
11月13日（木）～14日（金）広島市
【令和8年度】宮城・仙台大会
11月19日（木）～20日（金）仙台市